

静かな、春の晩のことでありました。

一人の男が、仕事をしていて疲れたものですか

ら、どこか喫茶店へでも行つて、コーヒーを飲んで
きたいという心が起こりました。

男は、家の外へ出ました。往来*は、あたたかな
おぼろ月夜**で、何もかもが夢を見ているような
様子で、あちらの高い塔も丘も空も森も、みんなか
すんで、黒くぼんやりと浮き出して、じつとしてい
たのです。

彼は、町へ出てから、①初めて、夜がもうふけて
いるのに気づきました。今まで部屋の中で仕事に心
をとられていたので、時刻のたつたのが分からな
ったのでした。町には、あまり人も歩いていませ
ん。また、この時分まで店を開けている家も見当た
らなかったのです。

「もう、あの家も起きていまい？」

彼は、顔なじみのカフェー***が、もう戸を閉
めてしまっていないかと思ひました。その方へぶら
ぶらと歩いていきました。彼は、歩きながら空を仰
いで、なんといういい夜の景色だと感心いたしまし
た。

その町にある、彼の行こうとした喫茶店は、もう
戸を閉めてしまったのです。彼は、その家の前まで
来てがっかりしました。

ことば * 往来：人や車が通る道。

** おぼろ月夜：月がぼんやりとかすんで見える夜。

*** カフェー：ここでは、喫茶店のこと。

仕方なしに、彼は今歩いてきた道を再び帰ろうとしました。そのとき、ふいに彼の後ろで足音が聞こえました。誰かが歩いてくるのでした。

「こんばんは、お疲れさま。」

後ろから呼びかけました。彼は、このとき立ち止まって、誰だかと振り向きしました。後ろから歩いてきた人を、彼は知らなかったのです。

「こんばんは。」

彼も答えました。

すると、相手の男は、さも親しそうに彼のそばへ寄り添ってきて、

「私は、この町内に住んでいるものです。疲れたもので、コーヒーを飲もうとして来たのですが、もう戸が閉まっています。やはり、あなたもそのおつもりでいらしたように見えたのですが、いい喫茶店をご案内いたしますよう。」

と言いました。

彼は、知らぬ人からこう言われたので、②ためらいました。しかし、町内のものであるということ、また、この人は人のよさそうであること、もう一つは、自分と同じように、この人も仕事に疲れて休息を求めに来たということ、そんなことが、なんとなく③親しみを感ぜさせたので、

「実は、私も散歩がてら、コーヒーを飲みに行ったのですが、もう戸が閉まっていましたのです。」
と、彼は言いました。

なまえ
名前：

と
解く

と
いいち
問一

―①で、彼が夜のおそくなつたことに気づかなかつたのはなぜですか。三十字以内で書きましよう。

と
いに
問二

―②で、彼がためらつた直接の理由を一つ選びましよう。
ア その喫茶店で、前にいやな思いをしたから。
イ 相手の男が、怒っているように見えたから。
ウ 知らない人から、喫茶店へ案内すると言われたから。
エ コーヒーが嫌いだと、相手に言えなかつたから。

こたえ

と
いさん
問三

―③について、二人の共通点を、仕事のあとに求めていることに着目して答えましよう。

【これまでのお話】

仕事に疲れて喫茶店へ出かけた男は、店が閉まっていた帰ろうとしました。そこへ知らない男が来て、別の喫茶店へ案内すると言いました。

【本文】

「この辺の町は、あまり客がないとみえて、早く寝てしまいますね。春の晩などは、もっと起きていてくれるといいのですが。」

と、相手の男は答えました。

「もう、そんなにおそい時刻でしょうか。」

「まだ、十二時前です。」

彼は、相手の男が十二時と言ったので、もう寝てしまふのは当たり前だというような気もしました。そして、家へ帰って自分も眠ろうと考えました。

「なに、ご案内しようという店は、すぐこの裏通りですよ。ごく新しく開いたので、ちよつと居心地のいい家ですから、お知りになっておいてください。」

と、相手の男は言いました。

彼は、こうまで言われると、その男といっしょに行かなければ、なんとなくすまないように思つて、

「①では、お伴いたしましょう。」
と言いました。

二人は並んで話しながら、ある横丁を曲がりま
した。彼は、今までにもたびたびこの辺りを通ったこ
とがあります。今夜はどうしたものか、その町が
とても美しくなって目に映ったのです。彼は、月の
光がこんなにすべてのものを美しく照らして見せる
のだらうと思いました。やがて、二人は明るい店の
前まで来ました。

「この家ですよ。」

と、いつしよに来た男が言いました。

入り口には、すがすがしい緑色のカーテンが垂れ
ています。中へ入ると、何の花か知らないが、香り
の高い花がたくさんびんに生けてありました。そし
て、あちらのテーブルに三、四人の客が腰をかけて
話をしていました。また、どの部屋からか、低いマ
ンドリン*の音が流れてきたのでした。

彼と相手の男は、一つのテーブルに向かい合っ
てかけました。このとき、彼は初めて相手の男の顔
を、はっきりと明かりの下で見ることができまし
た。そして、あまりその男の顔が、小さい時分に別
れた自分の従兄**に似ているのでびっくりしまし
た。従兄は南洋***の島で亡くなったので、もち
ろん従兄の生きているはずはないのであるが、②な
んとなく彼は、慕わしい気がしました。

「あそこにいるのは、みんなよくここへやってくる
人たちなんですよ。」

と、相手の男は言いました。

ことば * マンドリン：弦をはじいて音を出す楽器。

** 従兄：自分より年上の、男のいとこ。

*** 南洋：ここでは、日本から南にある太平洋の島々の地域。

彼は、その人たちを見ると、どの顔もかつて一度はどこかで見たことがあるように思われたので、びっくりしました。しかし、どこであったということも、またいつであったということも、思い出せなかったのであります。

「不思議な晩もあるものだ。こう、会う人々の顔が、みんな見覚えのあるような気がするの、はい、うしたことだろう……。」

と、彼は自分の目を疑ったのであります。

そのうちに、相手の男は、あちらにいる人たちと顔を見合わせて、あいさつをしました。そして、「ちよつと。」と言って席を立ち、あちらへ行きました。

彼は、さつきから奥の方で聞こえるマンドリンの音に耳を傾けていました。なんといういい音色だろうと思ったのです。これを聞いていると、③遠い昔のことなど思われて悲しくなりました。そして、誰がいったいそれを弾いているのかと思ったりしていました。そのうちに、ぴったりとマンドリンの音がやみました。

なまえ
名前：

と
解く

と
いいち
問一

―①で、一度は帰ろうと思った彼が、男と行くことにした理由を一つ選びましょう。

ア ここまで誘われて断るのは、すまないと思ったから。

イ 家への道が分からず、案内してほしかったから。

ウ その店で従兄に会えると、男から聞いたから。

エ まだ夜は早く、眠る必要はないと思ったから。

こたえ

と
いいに
問二

―②で、彼が相手の男に親しみを感じたのはなぜですか。

よんじゅうしうじない
四十字以内で書きましょう。

と
いさん
問三

―③から読み取れる、音楽を聞いた彼の気持ちを一つ選びましょう。

ア 明るい曲に心がはずみ、昔のことを忘れた。

イ 聞き慣れない音がこわく、帰りたくなった。

ウ 昔のことを思い、悲しさを感じた。

エ 音が大きくて、静かにしてほしいと思った。

こたえ

【これまでのお話】
男は、知らない男に案内されて喫茶店に入りました。奥から聞こえるマンドリンの音に耳を傾けていると、その音がやみました。

【本文】

そのとき、目の前へ美しい若い婦人が現れて、その人は彼の方へ、にこやかに笑いながらやって来ました。「あなたは、もう、私をお忘れになったでしょう？」と、婦人は言つて、彼の前に来て腰をかけました。「あなたは、いつも、私がマンドリンを弾いている窓の下を通つて、学校へいらつしやいました。そして、ある日、雨が降つて、あなたはたいそう困つておいでになりました。私は、あなたにかさをお貸ししました。あなたは、その後、私にきれいな本を持ってきてくださいました。

その本には、たくさんの美しい絵が入っていました。昔の伝説や、詩や、童謡や、お話や、いろいろなものが書かれていたのだけれど、外国の言葉で私には分かりませんので、①ただ私は、そのきれいな絵ばかり見ていました。

あなたにうかがったら、この本は古い書物で、字引き*にもないような文字があるので、翻訳することは困難だとおっしゃいました。

私は、まだ、その一つの水車が森の中に回つて、白い花が咲いて、赤い鳥の飛んでいた絵などは、②目に残っています……。」「と、彼女は言いました。

彼は、この話を聞くうちに、十年ばかり前のある日のことを思い出しました。そして、どうして、忘れているそのころの人を再び今夜は見る事ができたのだろうか、不思議に思ったのでした。

「私は、すっかり忘れていました。本当に、そんなことがあります。今、あの時分のことを思い出しました。」

と、彼は言つて、③過ぎ去った日をなつかしく思つたのであります。

「私は、ときどきここへまいります。今夜はもうおそくなりましたから、帰ります。ちょうど車も来たようですから、これで失礼いたします。いつかお目にかかります。」

と、その婦人は言つて出ていきました。

なまえ
名前：

と
解く

と
問一

―①で、婦人^{ふじん}が本の文章^{ほんぶんしやう}を読^よまずに絵^えを見ていたのは、何^{なん}の言葉^{ことば}で書^かかれていたからですか。

と
問二

―②の「目^めに残^{のこ}っています」とは、どのような意味^{いみ}ですか。
ひとつ選^{えら}びましょう。
ア 絵^えが目^めに近^{ちか}すぎて、よく見^みえないということ。
イ 今^{いま}もその絵^えの様子^{ようす}を、よく覚^{おぼ}えているということ。
ウ 絵^えを見続^{みつづ}けたため、目^めが疲^{つか}れたということ。
エ その絵^えが、今^{いま}も目の前^{まえ}に置^おかれていているということ。

こたえ

と
問三

―③で、彼^{かれ}は婦人^{ふじん}とのどのよ
うな出来事^{できごと}を思^{おも}い出^だしました
か。「かさ」と「本^{ほん}」を使^{つか}
い、四十^{よんじゅう}字以内^{じいない}で書^かきまし
う。

【これまでのお話】

男は、不思議な喫茶店で、昔かさを貸してくれた婦人と再会しました。婦人の話を聞いて忘れていた出来事を思い出し、過ぎ去った日をなつかしく感じました。

【本文】

時計が十二時半を打つと、みんなが帰りかけました。彼は相手の男といっしょに、そのカフェーから出たのであります。

「ちよつと、気持ちのいいカフェーではありませんか。お気に入りませんでしたか？」

と、相手の男は尋ねました。

「しみりとした、いいところです。私は、今夜は珍しく見覚えのある人に会って、いろいろなことが思い出されてなりません。」

と、彼は答えました。

二人は、おぼろ月夜の世界を話しながら歩いて、四つ辻*のところへ来ました。すると、相手の男は、「私の家は、これから三軒めの奥に入ったところです。どうか、お遊びにいらしてください。」

と言いました。

彼は、ちよつとその前を通りますので、男の入っていく後ろ姿を見送りますと、白い門が立っていました。男は、だんだんと白い門から内の方へ入っていました。

彼は、家に帰って眠りにつきました。

ことば * 四つ辻：道が十字に交わっているところ。

それから数日もたった後のことです。ある晩、彼は、男に連れられていったカフェーを思い出ししました。①緑色のカーテンの垂れているカフェーに、もう一度行ってみたくありません。そこで、彼は一人で出かけたのでした。

確かに、あのとき通った道を歩いていったのですけれど、どうしたとか、そのカフェーが見当たりませんでした。彼は、何度同じ町をうろついて、緑色のカーテンのかかっている喫茶店を探したかしれません。

「あの男の家は？」

と、彼は、今度は白い門のあった家を訪ねていきました。しかし、②この家も見当たらなかったのです。四つ辻に立って、彼は三軒めの家を数えてみましたけれど、どこにも白い門のある家が見つかりませんでした。

彼は、近所の人に尋ねてみました。

「ここらには、白い門のある家はありません。」

と、人々は答えました。

彼が、このことを家の人や友達などに話すと、誰も笑って、本当のこととして聞く者はなく、

「③夢を見たのだろう。」
と言うのでした。

なまえ
名前：

と
解く

と
問一

―①のあと、彼は喫茶店を探
すとき、入り口にある何を
目印にしましたか。色も含め
て答えましょう。

--

と
問二

―②のあと、彼は白い門のあ
る家を確かめるため、何をし
ましたか。二つに分け、それ
ぞれ三十文字以内で書きまし
ょう。

ふた め
二つ目

--	--	--	--	--	--

と
問三

―③について、本文に合う読み取りを一つ選びましょう。
ア 彼自身が、眠りながら見た夢だったと思い出した。
イ 家の人や友達が、彼の体験を夢だろうと考えた。
ウ 案内した男が、あの夜の出来事は夢だったと説明した。
エ 近所の人が、白い門の家は夢の中にあると教えた。

こたえ

--

問3

解答例：仕事に疲れて、休息を求めていること。

本文のどこを見るか

「自分と同じように、この人も仕事に疲れて休息を求めに来た」。

考え方

二人の状態と目的が共通していることを読みます。

採点ポイント

「仕事に疲れ、コーヒーを飲んで休もうとしていたこと」も正答。「同じ町に住んでいること」は、指定した観点への答えではありません。

問2

正解：ウ

本文のどこを見るか

「彼は、知らぬ人からこう言われたので」。

考え方

誘った相手は、彼の知らない人です。ためらいの直接の理由を読みます。

誤答の理由

ア：過去のいやな経験はありません。イ：相手は親しそうに話しています。エ：彼はコーヒーを飲みに出ています。

問1

解答例：部屋の中で、仕事に夢中になっていたから。

本文のどこを見るか

傍線①の直後「部屋の中で仕事に心をとられていたので」。

考え方

仕事に集中したことが、時間の経過に気づかなかった原因です。

採点ポイント

仕事に集中していたことが必須。「仕事に心をとられていたから」も正答。「疲れていたから」は外出の理由です。時間に気づかなかったことの言い直しは必須にしません。

問3

正解：ウ

本文のどこを見るか

傍線③と、その前の「これを聞いていると」。

考え方

よい音色に耳を傾けながら、昔を思っ悲しくなっています。

誤答の理由

ア：昔を忘れたのではありません。イ：音をこわがってはいません。エ：音への不満は書かれていません。

問2

解答例：相手の男の顔が、小さいころに別れた自分の従兄によく似ていたから。

本文のどこを見るか

明かりの下で相手の顔を見て、従兄に似ていると気づく場面。

考え方

相手の顔が、自分と関わりのある人物を思い起こさせています。

採点ポイント

相手の顔が自分の従兄に似ていたことが必須。「小さいころに別れた」「亡くなった」は省略可。「従兄本人だったから」は本文を越えた断定です。

問1

正解：ア

本文のどこを見るか

傍線①の直前「いっしょに行かなければ、なんとなくすまないように思っ」。

考え方

帰ろうとした彼が、同行を決めた直接の理由を確かめます。

誤答の理由

イ：道に迷っていません。ウ：従兄の話は聞いていません。エ：彼は、寝てしまうのは当たり前だと感じています。

問3

解答例：婦人にかさを借り、その後、婦人にきれいな本を持っていった出来事。

本文のどこを見るか

婦人の話にある、かさを貸したことと、その後に本を受け取ったこと。

考え方

誰が誰に何をしたかを、彼の立場から整理します。

採点ポイント

彼が婦人にかさを借りたこと、彼が婦人に本を持っていったことの二つで正答。一つだけなら部分的な理解です。「きれいな」は省略可。貸し借りの向きを逆にしないこと。

問2

正解：イ

本文のどこを見るか

水車・白い花・赤い鳥の絵を、婦人が具体的に語る場面。

考え方

昔見た絵を、今も思い浮かべられるという表現です。

誤答の理由

ア・ウ：目の状態を述べているのではありません。
エ：昔の絵の記憶であり、目の前に本があるとは書かれていません。

問1

正解：外国の言葉

本文のどこを見るか

傍線①の直前「外国の言葉で私には分かりませんので」。

考え方

文章が分からない理由を確かめます。

採点ポイント

「外国語」も正答。特定の国の言葉は示されていないので、「英語」などと決めつけません。

問3

正解：イ

本文のどこを見るか

傍線③の直前「家の人や友達などに話すと」。

考え方

誰の言葉かを確認めます。周囲の人の判断と、出来事の正体を区別します。

誤答の理由

ア：本人が夢だと確信したとは書かれていません。
ウ：案内した男の説明ではありません。エ：近所の人は、その辺りに白い門の家はないと答えただけです。

問2

解答例

一つ目：四つ辻に立って、三軒めの家を数えた。

二つ目：近所の人に、白い門のある家について尋ねた。

本文のどこを見るか

傍線②の後の、四つ辻で家を数える場面と、近所の人に尋ねる場面。

考え方

記憶に基づく確認と、人に聞く確認を分けて読みます。

採点ポイント

各欄三十字以内。①四つ辻から三軒めを数えた、②近所の人に尋ねた、を一つずつ評価します。順序は逆でも可。②は設問で対象が示されるので「近所の人に尋ねた」でも正答。

問1

正解：緑色のカーテン

本文のどこを見るか

傍線①と、緑色のカーテンのかかっている喫茶店を探す場面。

考え方

覚えている店の特徴を、目印にしています。

採点ポイント

色と物の両方が必要です。「カーテン」だけなら色を書き足します。白い門は男の家の特徴です。

使い方・出典・教材制作

白い門のある家／小学5・6年生向け

印刷と使い方

全18ページ。児童用は1～13ページ、解答・解説は14～17ページ、使い方・出典は18ページです。A4横向き・片面・実際のサイズ（100%）で印刷します。各回の本文を読む順に上へ並べ、問題をその下に置きます。

取り組み方

小学5・6年生向け、全4回です。各回の本文を最後まで読み、3問に取り組みます。本文は手元に置き、読み返しながら答えます。第2～4回には教材用のあらすじを添えています。

問題と採点

各回の記述は1問です。第4回は二つの欄に分けて答えます。字数は句読点も一字と数えます。解答例と同じ表現でなくても、必要な内容が書けていれば正答です。短答は字数を指定していません。

読み方のポイント

行動の理由、人物の気持ち、会話によってよみがえる記憶を読み取ります。案内した男を従兄本人と断定せず、「夢を見たのだろう」も周囲の人の判断として読みます。謎の正体を一つの正解に決める教材ではありません。

作者・作品

『白い門のある家』 小川未明

初出：「赤い鳥」1925（大正14）年5月号

出典情報

青空文庫「白い門のある家」

[青空文庫 図書カード（作品情報・本文）](#)

底本：「文豪怪談傑作選 小川未明集 幽霊船」ちくま文庫、筑摩書房。2008年8月10日第1刷／2010年5月25日第2刷。

底本の親本：「定本小川未明童話全集 5」講談社、1977年3月10日第1刷。

入力：門田裕志／校正：坂本真一

青空文庫ファイル作成：2016年6月10日

本文の加工について

ご提供の全文をもとに、現代表記・句読点・一部語句・段落を整え、ふりがな、注釈、傍線、問題を加えました。場面や会話の削除はしていません。「これまでのお話」は教材制作側が付け加えた説明です。

教材制作

家スタ！／学習舎シオン

新しい教材のご案内

新しいおはなし読解プリントは、【家スタ！】公式アカウントで先行配信しています